

# Shake Hands 常滑国際交流協会



第127号 2020年11月1日発行

〒479-0837 常滑市新開町5-58 電話・FAX：0569-34-4797

E-メール：ホームページ：http://www.japan-net.ne.jp/~tia/



## 2020年度 第3期 英会話講習のお知らせ

常滑国際交流協会では、私達に一番身近な外国語である英語を使って有意義な国際交流が出来ることを目指して「英会話講習」を行っています。下記により2020年度第3期の「英会話講習」の受講者を募集しますのでぜひご参加下さい。

記

第3期日程：毎回水曜日、(全10回)

2021年 1月13日、1月20日、1月27日、2月 3日、2月10日  
2月17日、2月24日、3月 3日、3月10日、3月17日

時 間：午前10時～12時

場 所：常滑市新開町5-65 常滑市民文化会館 練習室

講 師：Jason Ford ・他 (H. E. ART 英会話)

募集人員：20名(定員になり次第締め切ります。)

参加費：10,000円(常滑国際交流協会の会員は8,000円)

テキスト代：2,420円(税込) 第1期から継続受講の方は不要です。

\*常滑国際交流協会の個人会員の年会費は2,000円です。

\*まだご入会いただいていない方はぜひこの機会にご入会下さいますようお願い申し上げます。

申込み：常滑国際交流協会へ氏名・住所・電話番号・メールアドレスをご連絡下さい。

〒479-0837 常滑市新開町5-58 常滑商工会議所内 **常滑国際交流協会**

電話・FAX 0569-34-4797 メールアドレス [tia@japan-net.ne.jp](mailto:tia@japan-net.ne.jp)

## 今年度コロナ禍での常滑国際交流協会の活動について

2020年10月15日

昨年度末2月頃から新型コロナウイルスの感染が始まり、4月には緊急事態宣言が発令され、予定していた行事が殆ど出来なくなり、以来約半年が経過しました。今年度の当協会の状況を報告致します。

### 1. 総会

今年度の総会は例年の会場の常滑市陶の森資料館は改装工事で使用出来ない為、中央公民館の視聴覚室での5月23日(土)の開催を予定していました。3月から全ての会場が閉鎖され使えなくなり、検討の結果、総会は「資料送付、郵送議決」により行いました。

資料は個人会員115名と賛助会員15団体へ送付し、68通の返信があり、その内容は次の通りでした。

第1号議案 2019年度 事業報告及び会計報告 異議無し66、異議あり0、無記入2

第2号議案 2020年度事業計画及び予算案 異議無し65、異議あり1、無記入2

よって2議案は可決されました。

### 2. 英会話講習

英会話講習は3月から全ての会場が閉鎖され使えなくなり、2019年度の第3期の3月の3回分が実施出来なくなりました。英会話講習の会場は新年度から陶の森陶芸研究所の会議室でと予定していましたので、会場の利用が可能になった6月にこの3回分を陶芸研究所会議室で実施しました。しかし、この会場はコロナ対策に対応するには狭いので2020年度第1期の英会話講習は7月1日から8月26日までの9回を常滑商工会議所東館会議室で実施しました。9月からは商工会議所の駐車場が使えなくなり、9月の3回分の講習を陶芸研究所で行いました。この会場はコロナ対策として机無しにするなどの工夫をしましたが、十分な対策には狭すぎるため、第2期の会場は常滑市文化会館2階の第3練習室へ変更しました。受講生20名で現在実施中です。(9月30日~12月16日)

### 3. 英語ガイド講習

国際線の運行が中止されていて、外国人の来訪が無い為「英語ガイド講習」は予定していません。何らかの方法で実施を検討したいと思います。

### 4. English Speakers

4~6月は使える会場が無い為中止しました。7月から第1、第3土曜日13:30~15:00に開催していません。

### 5. 運営委員会

運営委員会は月1回常滑商工会議所東館で開催してきましたが、4~6月は会場閉鎖で中止しました。7月から再開。座席の間隔を拡げて実施しています。

### 6. 事務局

通常通り毎週火・水・木の3日間の13:00~16:00開設しています

## コロナウイルスの前の状況には戻れない

もうコロナの話はうんざりかも知れませんが、毎日、インターネット、テレビ、新聞を見たり読んだりしていろんな情報に接してみると現在の状況が「これからの日常」なのだと覚悟をしなければならないようです。

2020年は新型コロナウイルスの世界的な感染・大流行（パンデミック）が起こったことにより、人類の歴史に残る大変な試練の年になりました。世界中で多くの人が感染し、多くの死者が出ました。ウイルスの感染が短い期間に国境を越えて世界中に拡散したのは、人々が大変激しく移動するようになったグローバル化が進んだからでしょう。ウイルスの感染を止めようと世界中の国々が人々の出入国を厳しく制限し、その結果グローバル化の流れが止まりました。目に見えない小さなウイルスが人や物の動きを止めてしまったのです。このような事態がさらにこれから世界にどのように影響するかはまだ分かりませんが、この新型コロナウイルスの流行以前の状況にそっくり戻ることは無いだろうと思います。人の移動は国内では緩和されつつありますが、国境を越えての移動の回復はまだ先が見えません。世界中の航空会社は倒産の危機にさらされています。

コロナウイルスの感染流行によって、人の移動が減少しても、情報の流れは止まらず、各国の感染情報は逐一伝えられその状況も把握できました。緊急事態宣言が発せられ色々な制約が発生し、日常の仕事などに支障が生じた時に、世の中はいろいろと対応しました。「新しい生活様式」と呼ばれるようになった、マスクの着用や手の消毒などはアツと言う間に普通になり、「密」を避ける対策もいろいろと実施されました。在宅勤務やテレワークが広がりました。恐らくコロナが終息してもテレワークやオフィスの都心から郊外や地方都市への移転が行われ、政府が音頭をとってもなかなか進まなかった「働き方改革」が一気に進みそうです。サラリーマンのオフィスでの「働き方」は急速に変わるでしょう。

今、新型コロナウイルスのパンデミック第2波がヨーロッパを襲っていて、さらに世界中でも猛威を奮い続けています。この状況では来年の夏に延期した東京五輪がやれるとはとても思えませんが、関係者は誰も公に中止と言い出しません。東京五輪委員会、政府、政治家、官僚、マスコミ、スポンサー企業等々はまだやれると思っているのでしょうか。あるいは言い出せない隠れた理由があるのかも知れません。海外の国々も国民も心から安心出来る状況でなければ開催出来ないと思います。日本は重大な決断が必要な場面で決断が遅れて大きな犠牲を出した歴史があります。その歴史と東京五輪とを重ね合わせるのは無理があると思われるかも知れませんが、コロナ禍の最中で東京五輪の場合も中止と決断出来ない事によってどれだけの犠牲を被るのか計り知れません。

東京五輪にも新型コロナ対策としてワクチンの開発が間に合えばと言われていますが、そう簡単なものではないようです。本来ワクチンの開発には年単位の時間がかかるらしく、開発が出来たと言っても、それがどれだけ効果があるのか、効果がどれだけ続くのかもまだよく分からないらしい。そのようなリスクのあるワクチンに過剰な期待をして国民に接種を進めることは非常に危険です。インフルエンザが消えないように新型コロナも簡単には消えないとも言われています。

日本語ではコロナ以来の生活の変化のことを「新しい生活様式」と言っていますが、英語では New normal と言うようです。コロナが無かった時に戻れない限り、現在のこの状況が画期的に改善された日常は、戻って来ないと覚悟するほか無いと思います。

(運営委員 市原 昌)

## コロナ禍の TSIE

TSIE 会長 福田泰造

2020年5月のTSIEの年度初めを告げる総会は新型コロナウイルス禍の影響により中止決定をしました。その後もウィルス感染は終息の兆しが見えずTSIEの今年度事業は全て中止せざるを得ませんでした。そしてこの目に見えない魑魅魍魎は現在も私たちの生活環境を脅かしています。

TSIEでは、過去に事業中止を余儀なくされた豚インフルエンザ、SARSパンデミックそして、東日本大震災の経験を思い出しながら8月から恐る恐る再開した役員会にて今年度以降の国際交流活動について協議を重ねています。

役員会では、本年交流予定の学校同士のポストカードの交換、ビデオレター、或いは各企業が実施しているリモート交流そして、交流相手国同士の紹介パネルを使つてのプレゼンテーション交換など、様々な角度から意見交換が活発になされています。そして、何よりも3月、4月に授業休止に追い込まれた小学校の先生方が授業以外の課外活動である国際交流へ時間が割けるかが心配です。学校（先生）に負担をかけないための配慮についても委員会では検討しています。コロナ以降も国際交流活動を続けたい各小学校の委員会の不撓不屈の精神が伝わってきます。併せて新型コロナウイルスの影響が比較的少ない海外の交流相手国からは、ポストカード交換等の要望が届いています。TSIEでは昨年からの募集登録中のTSIEサポーターからこれまでの我々の発想とは全く異なった斬新な提案もありOBや先輩諸兄の協力を改めて感謝しております。

只、気がかりなのはTSIEが加盟しプログラムを活用しているISSE本部が活動を休止していることです。ISSE本部はアメリカコロラド州にありアメリカ建国上これまでに例を見ない悪夢のコロナ最前線にいるベヴ・キャンベルISSE会長及びスタッフそして多くの友人を危惧しています。

以上を踏まえ海外の交流仲間の協力を得ながらTSIE（日本）独自の国際交流プログラムを整備し次年度以降の小学生の為の新しいプログラム作りに試行錯誤しています。最後に国際交流協会の皆様からのご提案を期待しております。



写真 左上：2005年TSIE創立10周年記念式典  
右下：2010年ISSE常滑カンファレンス  
左下：2019年TSIE総会

